鶴見一之先生を想う

昭和 34 年 10 月 12 日鶴見先生が忽焉として逝去され，誠に哀悼痛惜の情に堪えません。

先生は，明治 14 年新潟県長岡市に生まれ，明治 39 年東京帝国大学土木工学科を，優秀な成績で御卒業になり，仙台高等工業学校に教鞭をとられ，43 年から 2 カ年間独，英，米に御留学，主として河海工学，衛生工学を御研究の上，帰朝されるや間もなく，同校土木工学科長に任ぜられ，昭和7＊年には，名誉ある工学博士の学位を受け，続いて同校校長に進まれ，21年退官せらるるまで，終始一貫，土木，機械，電気工学に関する専門技術者の育成に努力を傾注せられました結果，仙台高等工業学校は，全国屈指の名門と称せられるに至つたのであります。今や当時の卒業生は，全国の官公庁を始め，民間会社，諸団体の中堅幹部として活躍していることは，何人も認めるところでありまして，誠に先生の大きな御功績と申さねばなりません。この間先生は，「土木施工法」を始め，「下水道」その他の著書や論文を発表せられ，晩年においてもいささかも倦怠せられることなく，不撓不屈，学理を研究せられ，上水道並びに下水道に関する著書を執筆完成されたことは，私どもの言葉にはつくされぬ程深く感銘するところであります。

又，土木学会東北支部創立以来，支部長として又顧問として，東北における土木学会を終始熱心に指導せられ，最近は御不自由なる身を，尚学会の会合，視察旅行などにも努めて出席せられましたことは，私どもの本当に感激に堪えないところでありまして，土木工学及び土木事業に関し，功績が特に顕著なるの故を以て，土木学会の名誉員として推挙せられましたことも誠に当然のことであります。

更に昭和 21 年退官後は，宮城県土木部，仙台市水道部の各顧問，綜合開発審議会，水防協会，建設業審議会，北上地域地方綜合開発審議会等の委員として，東北開発のため尽力せられるなど，先生の遺された御功績は真に偉大なるものがあると申さねばなりません。

先生は，文字通り温厚篤実，人格円満，あの気高くもやさしい御顔，あの深い温い御心は，ひとたび先生の温容に接したるものは皆慕わざるものなく，私も亦学会の会合に，見学旅行などに度々お伴を致し，懇篤なる御指導を願つた当時の，数々の想い出に先生の温容が目の前に浮かんで参ります。

東大土木同窓会が仙台に創立せられました時，先生は之を東杜会と名づけられましたが，私どもは大先輩たる先生を，慈愛溢るる父として常に敬慕して已まないところでありました。

今後尚，東北土木工学会の柱石として，東北開発のため先生の御指導に預ることが多多ありまする時，忽然として幽明所を異にし，再び先生の温容に接することが出来なくなりました。誠に痛恨の極みであり，哀悼の情に堪えません。ここに謹んで先生の御冥福を心より御祈りする次第であります。（原文のまま掲載しました）

【正員　東北支部顧問　宮本　保・記】